

| | | |
|---|---|--|
| 研究構想シート | 学校名 | 雲南市立吉田中学校 |
| | 氏名 | 松田 里絵 |
| A 研究主題 主体的に学びに向かい、表現できる生徒の育成～目的意識・相手意識をもたせる授業の工夫～ | | |
| B 研究の目的 「主体的に学びに向かい表現できる」生徒の育成、「目的意識・相手意識をもち活動に取り組む」生徒の育成 | | |
| C 子どもの実態 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に前向きに授業を受ける生徒が多い。 ・学力は、県平均並み。 ・他者の考えと比べたり、複数の考えを基に自分の考えをまとめたりするのが苦手。 ・自分の思いが先行してしまい、不適切な言葉を言ってしまう生徒がいる。 ・グループ活動には、慣れているが主体的には臨んでいない。 ・自分の思いを表出するのが苦手な生徒が多い。 | E 手立て・内容（研究仮説） ○学習内容や課題を明確にし、それらを意識させ、さらに高い目標をどこに置けばよいかを考える学習を進めれば（授業の質の向上）、「主体的に学ぶ」生徒が育成できるであろう。 【具体的な手立て】 ・「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業展開 →◇授業スタンダードを取り入れた単元計画、授業づくり ◇授業の最初に「めあて」を提示 ・学びの必要性や効果の実感につながる学習課題の設定 ○目的意識・相手意識を明確にした単元設定や活動をすれば、目的意識・相手意識をもち授業に臨む生徒が育成できるであろう。 【具体的な手立て】 ・学習過程において、協働的な学びを通して個人および集団の考えを深めていく手立ての工夫 →◇ペア学習、グループ学習の活用 ◇生徒が安心して意見を交わせるためのルールの設定 ◇生徒の意見に対する教師の称賛、励まし、承認 ◇個人で考える時間の確保 ◇個人の意見を表現する場の設定 ◇伝え合うための技法の習得 ◇ICT機器の効果的な活用 ◇ソーシャルスキルトレーニングを通じた自尊感情の育ち | D めざす子どもの姿 <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に高い関心を持ち、自ら課題を見つけ、その解決に向けて方法を探り、さらに学んでいこうとする姿勢をもつ生徒 ・さまざまな意見や情報をもとに自分の考えをまとめ、対話の中から協力し合って学習を進め、考えを深め、よりよい課題解決に向けて努力する生徒 |
| | F 検証方法 ○評価規準・分析基準を設定する。 ○タブレットやノート、ワークシートの記述を基に子どもの変容を見取る。 ○校内での評価（生徒評価アンケートの年2回の実施） ○教職員評価（12月実施予定） | |
| | G 研究計画 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の質の向上→表現をする基盤作り（目的意識・相手意識） ①目的意識・相手意識を明確にした表現活動の設定 ②短時間でできるグループアプローチ（SST：ソーシャルスキル・トレーニング、SGE：構成グループ・エンカウンター）の実施 ③「教科等横断的な年間カリキュラム」の作成と実施 ・基礎・基本の定着（確かな学力）→表現力を支える 【個別最適な学び】 ・学校全体の取組 ①ICTの活用（指導の個別化、学習の個性化） ②家庭学習課題の工夫 ③個に応じた学習の提示 【協働的な学び】 ①グループやペア学習の充実 ②ふるさと教育の精選と充実 | |